

*Medical Technology* 臨時増刊  
感染症迅速検査アップデート



“感染症の起炎病原体を早く知りたい”という、臨床現場からの要望はこれまでずっと繰り返されてきたものであり、これは、依然として感染症診療における重要な課題の一つである。この要望に応えるかたちで、感染症の病原体診断をとりまく状況は大きく変化し、検出感度や迅速性の向上、操作性の改善、新たな病原体への適応拡大など、大きく進歩を遂げつつある。

身近なところでは、結核菌の遺伝子診断やインフルエンザ抗原の迅速診断は、それらの導入によって初期治療の方針に大きな影響を与えるようになり、従来の経験的治療のあり方も変わってきている。さらに、その他多くの迅速検査法が開発され、キット化されてベッドサイドで広く使用されるようになったのはいうまでもない。ただし、その一方で、最近ではあまりにも多くの検査キットが発売され、それぞれの商品の特徴を把握するのが困難な状況となっており、これらの正しい使い方が要求されるようになった。

今回、「感染症迅速検査アップデート」というタイトルの書が *Medical Technology* の臨時増刊号として出版された。本書は、現在利用可能な迅速検査法についてその特徴を解説したもので、迅速検査法を整理して把握するのに最適な書籍になっていると思われる。とくに、各検査法が1ページごとに簡潔に

まとめである点では読みやすい構成となっており、必要最低限の情報がその中に組み込まれている。また、各感染症領域における検査法の位置づけについて、それぞれの領域の専門家が解説を加えており、広い視野で検査法をとらえるうえで参考になると思われる。

新しく開発された検査法の導入とその適切な利用は、診療の質のレベルアップにつながる。しかし、どのような検査法にも利点と欠点があり、それらを十分理解しないまま利用するのであったら意味がない。

本書は、数多く存在する検査法を正しく理解・整理し、これらを適材適所で活用するための参考書として有用であり、感染症の診断・治療に高く貢献するものと思われる。

(東邦大学教授 医学部 微生物・感染症学講座

山口恵三)

<B5判/208頁/定価4,410円(本体4,200円+税5%)/医歯薬出版/2008>